

豊岡盆地に生息した国内産最後のコウノトリ（個体名：イズシ）の捕獲から死亡までの経緯，死亡後の処置，および処置後の保管場所

布野隆之¹⁾

The last Japanese domestic oriental white stork named "Izushi" and its storage after death

Takayuki FUNO¹⁾

Abstract

I report the very end of an oriental white stork named “Izushi” that has been believed as the last wild stork of Japan. It nested in Toyooka basin until 1965, captured in 1967 and was dead in 1986. It was stuffed by Sakamoto Manufactory in 1987 and stored in Kobe Oji Zoo, but the whereabouts were not known thereafter. This time, the stuffed stork stored in Museum of Nature and Human Activities, Hyogo from at least 1992, was specified as “Izushi,” based on characteristics of feathers and measurements of body morphology.

Key words: artificial rearing, Oriental white stork, stuffed stork, Toyooka wild population

(2022年8月19日受付, 2022年9月25日受理, 2023年3月10日発行)

はじめに

コウノトリ *Ciconia boyciana* は、河川、湖沼、湿地、干潟などに生息する大型の渉禽である。主に魚類、両生類、爬虫類、甲殻類、陸生昆虫、水生昆虫、貧毛類などを捕食している(田和ほか 2016)。我が国では 1800 年代に複数個所で繁殖し(丹羽 1892, 神宮司 1910)、昭和初期近畿北部の但馬地域には繁殖集団が存在していた(岩佐 1936)ものの、1959 年には、生息数が 21 個体に激減した(山階・高野 1959)。コウノトリの危機的な状況を踏まえ、国内で最も多くのコウノトリが残存していた兵庫県は、1963 年 5 月 14 日に野生個体を捕獲して保護増殖に取り組むことを決定し、1965 年から人工飼育を開始した。しかしながら、飼育下での繁殖は困難を極め、1 個体のヒナを得ることなく、日本産のコウノトリは絶滅してしまった(大迫 2012)。

本稿では、但馬地域の豊岡盆地で捕獲・飼育された日本産野生コウノトリのうち、最後まで生き残っていたコウノトリ(以下、

イズシと呼ぶ)について、捕獲から死亡までの経緯、死亡後の処置を報告すると共に、その過程で得られた情報に基づき、イズシが兵庫県立人と自然の博物館のコウノトリ標本(標本番号: A1000002)であることを特定したことを、報告する。

調査方法

イズシの飼育や死亡後の処置等に携われた方々にヒアリングを実施すると共に、当時の観察記録、写真、計測値等の資料を可能な限りご提供頂いた。これらの資料を基に、イズシの捕獲から死亡までの経緯、および死亡後の処置をそれぞれ整理した。その後、イズシの写真および計測値をもとに、コウノトリ標本(標本番号: A1000002)の鑑定を行った。写真に基づく鑑定は、大迫義人教授(兵庫県立大学大学院)に依頼した。また、計測値にもとづく鑑定は、著者が行った。

¹⁾ 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; 6 Yayoigaoka, Sanda, Hyogo, 669-1546 Japan
funo@hitohaku.jp

結 果

捕獲から死亡までの経緯

イズシはメス個体であり、1965 年まで兵庫県豊岡市上淵で営巣していたが、日本産のコウノトリが絶滅の危機にあるという判断のもと、1967 年 1 月 11 日に兵庫県出石郡出石町伊豆において捕獲された。イズシは、コウノトリ飼育場（現在の兵庫県立コウノトリの郷公園・附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター）のケージで飼育されることになり、同年内に同飼育場のオスとペアになった後、4 卵の産卵に至った。この 4 卵のうち、2 卵は有精卵であったが、ふ化しなかった。その後イズシは、1969 年には中国産のオスとペアになり、1969 年から 1972 年の間に、それぞれ 8 卵、4 卵、5 卵、および 8 卵を産んだ。この内、有精卵は、それぞれ 4 卵、1 卵、1 卵、および 4 卵であったが、すべてふ化には至らなかった。また、1982 年には東京都多摩動物公園から導入されたオスとペアになり、同年に 4 卵、1983 年に 4 卵、1984 年に 6 卵、および 1985 年に 4 卵を産卵したが、

すべて無精卵であった。その後、1986 年 2 月 26 日には食欲が落ちて衰弱し、同年 2 月 28 日午前 7 時 30 分に死亡が確認された。死亡時刻は 1986 年 2 月 27 日夜半から同年 2 月 28 日未明と推定された。

死亡後の処置

死亡したイズシは、1986 年 2 月 28 日に神戸市立王子動物園に搬送された後、同年 3 月 1 日に村田浩一博士（現横浜市立よこはま動物園ズーラシア園長）により解剖された。解剖時に記録されたイズシの外部形態の測定値および体重を表 1 に、器官の測定値を表 2 にそれぞれ示す。

その後、イズシは冷凍保存され、1987 年に京都府の坂本剥製製作所において本剥製となり、神戸市立王子動物園に納品された（図 1）。しかしながら、2021 年 6 月に納品場所を確認したところ、イズシの本剥製は王子動物園に保存されておらず、加えて、移管や譲渡等の公式記録が残っていなかったため、1987 年以降のイズシの所在は不明となった。

表 1 イズシの外部形態の測定値と体重。表中の数値は、死亡時における測定値を示す。外部形態および体重の測定は、1986 年 3 月 1 日に実施された。

全長 (mm)	翼部		嘴部		尾長 (mm)	跗蹠長 (mm)	体重 (g)
	翼開長 (mm)	翼長 (mm)	嘴高 (mm)	嘴峰長 (mm)			
1095	2160	658	38	228	260	245	2200

表 2 イズシの器官の測定値。表中の数値は、死亡時における測定値を示す。外部形態および体重の測定は、1986 年 3 月 1 日に測定された。—は、欠損値を表す。

	長さ (mm)	幅 (mm)	重量 (g)
心臓	55	40	45
肺	82	25	50
胃	100	50	—
肝臓	80	70	60
脾臓	13	8	—
膵臓	15	5	—
右腎臓	60	20	30
左腎臓	55	20	30
右副腎	15	3	—
左副腎	—	—	—
小腸	990	—	—
十二指腸	90	—	—
盲腸	2	—	—
直腸	540	—	—



図 1 神戸市立王子動物園納品時に撮影されたイズシの本剥製。写真は坂本剥製製作所の坂本博志氏により撮影されたものである。

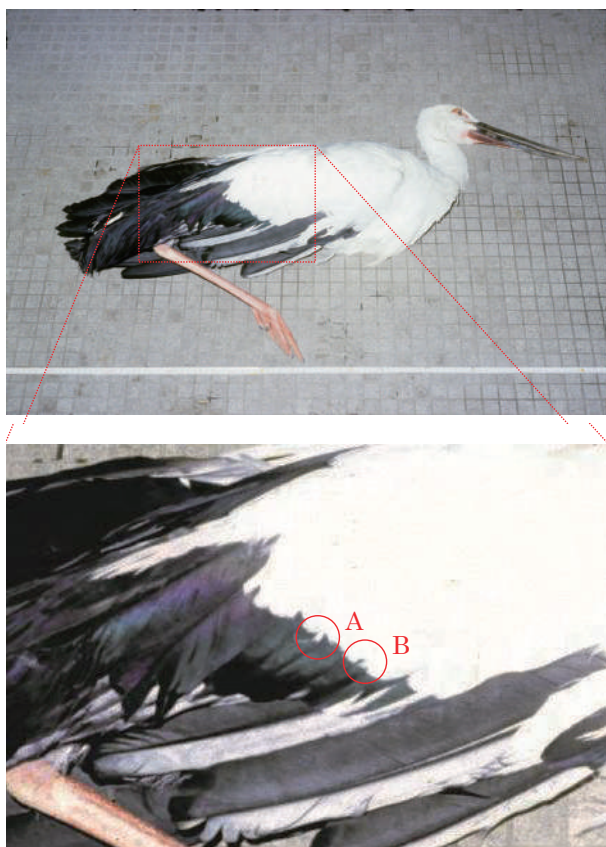


図 2 死亡直後のイズシ(写真上)および翼面に確認された欠損(写真下). 写真下は、写真上の赤色点線内を拡大したものである。写真下の赤色円 A および B は、右翼上面の中雨覆(白い羽)の先端部に確認された欠損を示す。写真は、村田浩一博士(現横浜市立よこはま動物園ズーラシア 園長)に提供頂いた。

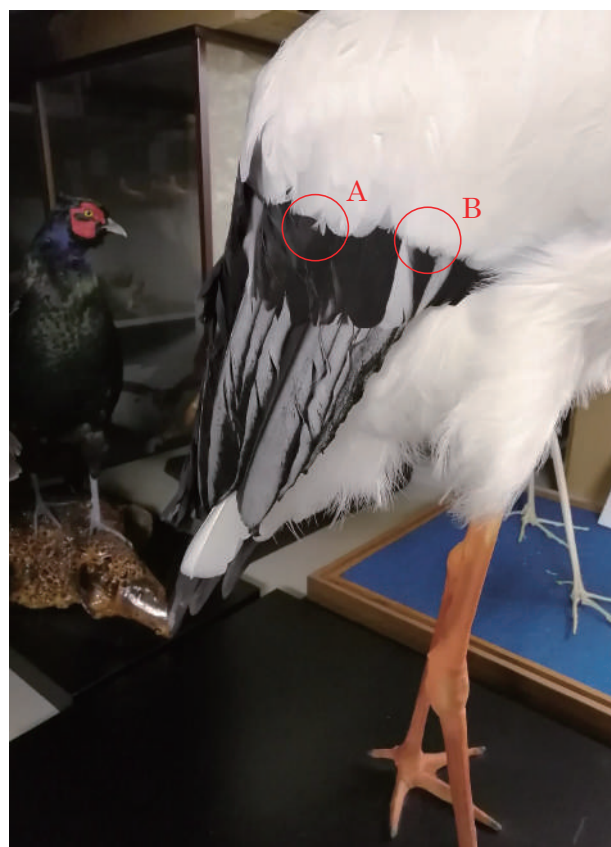


図 3 兵庫県立人と自然の博物館収蔵のコウノトリ標本(標本番号:A1000002)で確認された羽毛の欠損。写真中の赤色円 A および B は、右翼上面の中雨覆(白い羽)の欠損を示す。写真は、村田浩一博士(現横浜市立よこはま動物園ズーラシア 園長)に提供頂いた。

コウノトリ標本の鑑定

イズシの死亡直後の外部形態を図 2 に示す。イズシは、右翼上面の中雨覆(白い羽)の先端部 2 箇所欠損があり、これが他個体との識別点である。大迫教授の鑑定により、イズシと同一の欠損が兵庫県立人と自然の博物館(以下、ひとく)収蔵のコウノトリ標本(標本番号:A1000002)の中雨覆の 2 箇所にそれぞれ確認された(図 3)。

また、イズシの外部形態の計測値(表 1)のうち、翼長、嘴高、嘴峰長、尾長、および附蹠長は、ひとくのコウノトリ標本(標本番号:A1000002)の値(表 3)と完全に一致した。

表 3 コウノトリ標本(標本番号:A1000002)の外部形態の測定値。―は欠損値を表す。

全長 (mm)	翼部		嘴部		尾長 (mm)	附蹠長 (mm)
	翼開長 (mm)	翼長 (mm)	嘴高 (mm)	嘴峰長 (mm)		
—	—	658	38	228	260	245

以上の鑑定により、ひとく収蔵のコウノトリ標本(標本番号:A1000002)はイズシであることが明らかとなった。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、横浜市立よこはま動物園ズーラシアの村田浩一園長、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科の大迫義人教授、および坂本剥製製作所の坂本博志氏に多大なご尽力を頂いた。また、兵庫県立コウノトリの郷公園および神戸市立王子動物園に貴重な資料や情報をご提供頂いた。この場を借りて深く感謝申し上げる。

要 旨

豊岡盆地に残存していた国内産野生コウノトリのうち、飼育下において最後まで生き残っていたメス個体「イズシ」について、捕獲から死亡までの経緯、死亡後の処置を整理し、現在の保

存場所を調査した。イズシは 1965 年まで豊岡市内で営巣した後、1967 年から人工飼育され、1986 年に死亡した。その後、1987 年に京都府の坂本剥製製作所で本剥製となり、神戸市立王子動物園に納められたが、それ以降の公式記録は残っておらず、イズシの所在は不明となっていた。しかし、イズシの死亡時に撮影された写真、および解剖時に計測された外部形態の測定値との比較により、1992 年以降、兵庫県立人と自然の博物館が収蔵しているコウノトリ標本(標本番号:A1000002)を鑑定したところ、翼部の欠損の位置および外部形態の計測値が一致したため、このコウノトリ標本(標本番号:A1000002)がイズシであることが明らかとなった。

文 献

- 岩佐修理(1936)カフノリ(鶴). 兵庫県博物学会会誌, **11**, 21–27.
- 神宮司庁(1910)古事類苑動物部. 神宮司庁, 東京.
- 丹羽甲子郎(1892)鳥日記. 動物学雑誌, **4**, 271–273.
- 大迫義人(2012)コウノトリの絶滅から保護・増殖, そして野生復帰. 日本鳥学会誌, **61**, Special Issue, 91–93.
- 田和康太・佐川志朗・内藤和明(2016)9年間のモニタリングデータに基づく野外コウノトリ *Ciconia boyciana* の食性. 野生復帰, **4**, 75–86.
- 山階芳麿・高野伸二(1959)日本産のコウノトリ *Ciconia ciconia boyciana* Swinhoe の棲息数調査報告. 山階鳥類研究所研究報告, **1(13)**, 505–521.